

事業の基礎情報

実施主体	産交バス（株）
事業実施地域	大津町
共創の類型	官民共創 他分野共創
他分野共創の類型	エネルギー・環境 ・ 地域・移住 ・ 観光・まちづくり ・ その他（企業振興）
共創パートナー	大津町、本田技研工業（株）熊本製作所、（株）構造計画研究所、産交バス（株）、熊本県
運行形態	路線バス
運行主体	産交バス（株）

取組の概要

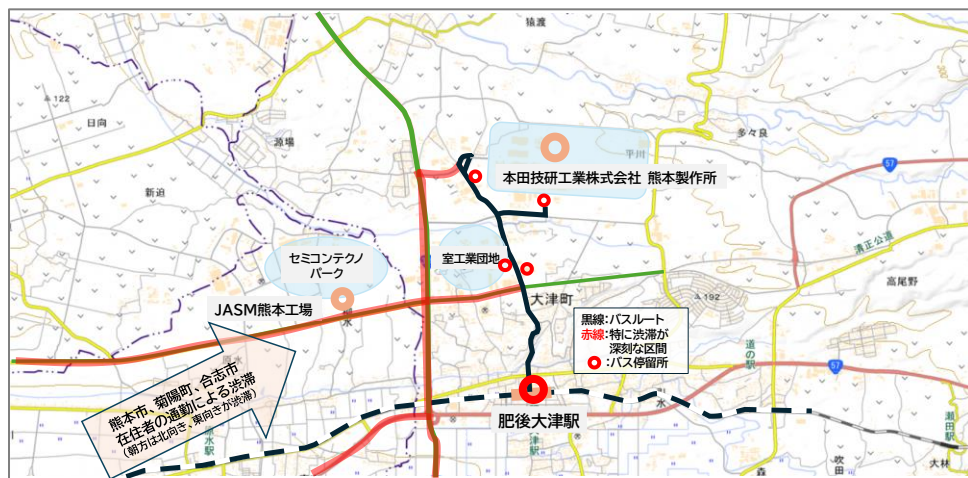
（現状の地域課題と事業目的）

企業等が多く集積する菊池南部地域では、従前から通勤時間帯の交通渋滞が慢性化している。台湾積体電路製造（TSMC）の立地に伴い、当地域では関連企業等の進出が相次ぎ、更なる渋滞悪化が懸念される。渋滞対策として行政が道路整備や交差点改良といったハード施策に取り組んでいるが、完成までには時間を要するため交通量の増加に追いついていない。そのため、公共交通（電車・通勤バス）を活用することで通勤者の車両台数を減らし、町内及び周辺地域の渋滞問題の課題解決に繋げることを目的とする。

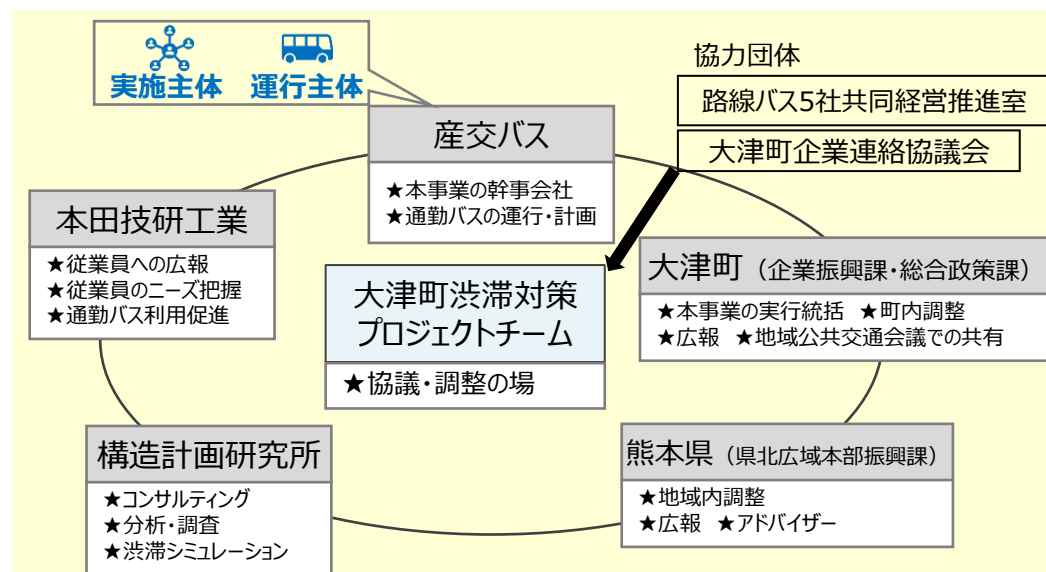
（事業の概要）

大津町内で最も従業員が多いエリアを対象に、JR肥後大津駅から室工業団地を經由し、本田技研工業(株)熊本製作所までの区間で、通勤バスを運行する。運行にあたっては、工業団地に勤務する従業員（利用者）の出退勤時間や、JR豊肥本線との乗継を考慮したダイヤを構築した上で、通勤手段を車から公共交通機関への転換を促し、渋滞解消に向けた解決の一助となるような取り組みとする。その上で、渋滞緩和への効果検証を行い、本格運行へ結び付けられるように取り組む。また、日中の渋滞対策も併せて検討していく。

事業の全体像・共創の仕組み



出典：国土地理院ウェブサイト



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

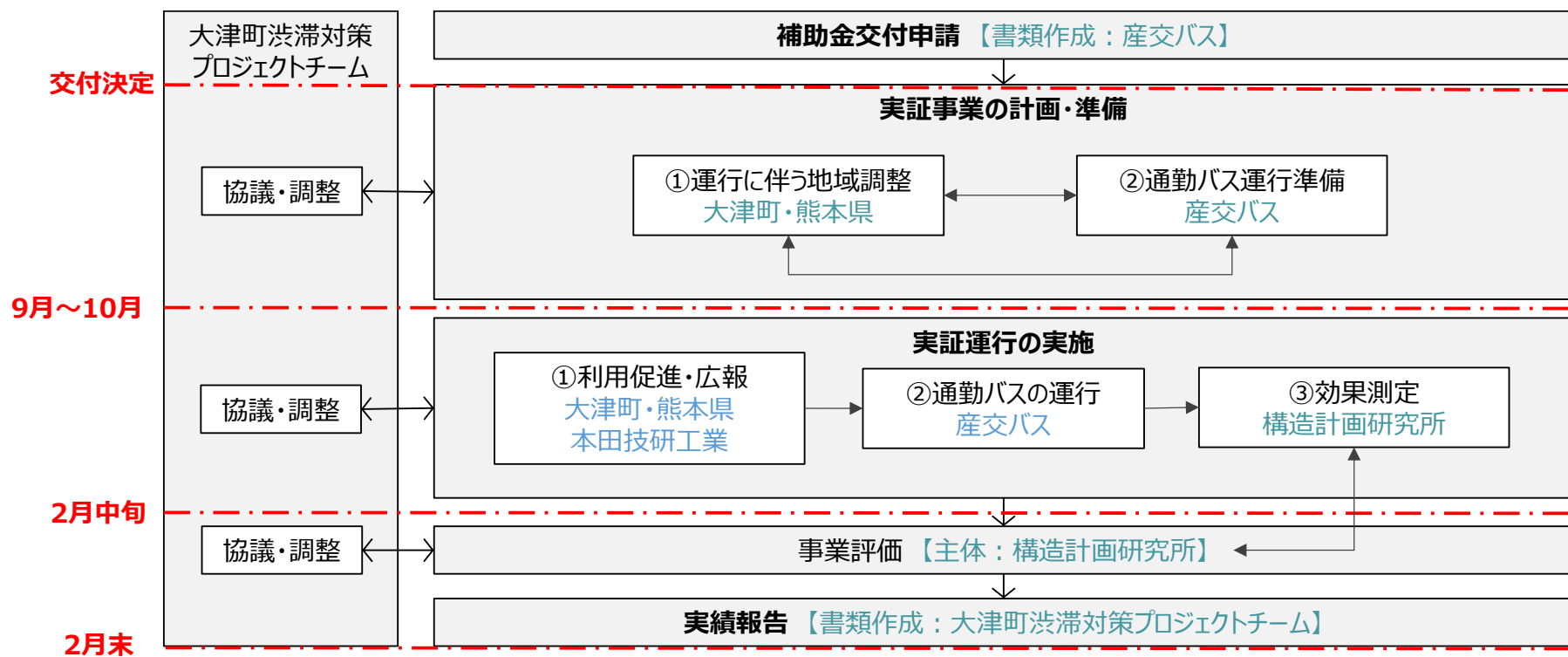
渋滞対策という視点では、各ステークホルダーが独自で活動しても、最適な効果を得ることは難しく、行政・町内立地企業・交通事業者・コンサルというステークホルダーが共創・協調することで効率的な渋滞対策に繋げることができる。大津町渋滞対策プロジェクトチームでは、昨年度当初から当該地域の渋滞対策について、多くの協議を重ねて本事業の計画に至ったところである。さらに、事業実施にあたっては路線バス5社共同経営推進室や大津町企業連絡協議会とも連携することとしており、地域一体となって取り組む素地ができている。

(実証事業により見込まれる効果)

通勤バス運行による、直接的な評価項目としては、車から公共交通へ転換したことによる渋滞緩和が挙げられる。一方、間接的な項目としては交通渋滞から生じる住民の経済損失の減少（通勤時間の有効活用）、交通事故防止、CO2削減、人材確保の促進、歩数増加に伴う健康増進、公共交通を利用することによる交通結節点における地域活性化が挙げられる。特に、人材不足が懸念される当地域では、車や免許を有しない若者や都市圏からの移住者を雇用していくためにも、公共交通がもたらす意義は非常に大きい。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)



(補助事業実施後の予定)

補助事業実施後の予定については、利用者数、公共交通事業としての収支、社会的便益を含めた収支、費用負担（受益者・関係者間）、将来的な見込み、環境要因（交流人口、企業進出、道路整備等の状況）等を総合的に勘案した上で、議論・検討を重ねながら、次年度以降の継続運行を目指していく。

特に、将来的な見込みとして同町では、隣町へのTSMC進出を契機に、30社以上の企業進出や2,700戸以上の住宅開発が加速化しており、定住人口・交流人口が更に増えるポテンシャルを有しており、本事業期間中だけの評価だけでなく長期的な視点も必要である